
神への復讐

麻生ケイスケ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神への復讐

【Nコード】

N5901G

【作者名】

麻生ケイスケ

【あらすじ】

知ってる？人間は、カミサマに踊らされてるって。いつか人間は、いや、生き物は、死ぬんだって。それは、カミサマが嫌いな奴から消えるってこと。これは、あるアンドロイドが、カミサマに戦いを挑んだ物語。

vo1 i (前書き)

初めて、ここに書かせてもらう 破テ乃海と言うものです。表現が、子供ぽかったり、下手なのですが、精一杯、頑張りますので、よろしくお願ひします。

「人間は、利用して、捨てる。」

オレ、月光乃ケイスケは、何も覚えていない。

しかし、あの時の言葉が頭から離れない。

その言葉がなんなのかは、オレには、わからない。でも、わからないからといって、ほっついていいことではない気がした。だから、このことやオレが、何者なのか強く知りたいと思う。

でもオレには、どこに行けばいいか、わからない。

だから、都会という町の中を宛もなく、ただ歩いている。歩きながら、オレは、いつも同じことを考える。

人々は、何をそんなに焦っているのか…。

まるで、いつも同じ動きしか、できない操り人形のように、彼らは動いている。表という偽りの仮面を付けて…。

本当にそれでいいのか？

本当は、誰もがわかつているのではないか…。

そんなことを考えていると、ある看板を見つけた。

《大堂霖図書館》

(だいどうりんとしょかん?)

なんとなく行ってみようと思った。

中にはいると、中は、広く迷いそうになるくらいだ。

カウンターで聞いてみた。

「すみません。」

「はい。何でしょうか？」

「あの、カミサマについての本は、ありますか？」

「はい。ご案内します。」

(今、一瞬、口が勝手に……。と、それよりも、この人なんか、機械っぽい……。)

「ここです。ごゆっくり。」

そういうと、女の人？は、元、来たほうへと戻っていった。

voilà (後書き)

どうでしたでしょうか？ 楽しんでいただけたなら、うれしいですが。こんな感じで全力でがんばりますので、暖かい目で見てください。

オレは、《神》と名の付く本は、誰かに取付かれたように探した。そうしたら、ある本の1ページに気になることが書いてあった。

《生きものは、すべて、神々が生み出した。その神に最も愛された者が2人いた。1人は、天界の鴉。ゼロ。もう1人は、人間界の蒼獣…》

読めない…。

そこから先は、字がかすんできて、読むことができない。しかし、胸が高鳴る。

(何だ？うずく感じは…？)

高鳴る鼓動を押さえながら、必死で本を読んでいく。

《神は、天界の鴉に人間界を監視することを命じたという。人間は、神が生み出した中で、一番、出来が悪かった。なぜなら、神が予想していた以上に、人間は、優れていたからだ。》

【言葉】コミュニケーションという、独自で生み出したこと。そして、それにより反乱が起きることを神が恐れたからである。だから、監視することを命じた。》

(まるで、歴史を勉強してるみたいだ。)

《人間界の蒼獣は、神に監視することをやめるように、衝突いたのだ。蒼獣は、神に同族を信じてほしかったのだ。しかし、神には、それがわからなかった…。神は、蒼獣に、死を与えたのだ。》
ズキッ！！！！

「うっ！！！」

感じたことのない痛みがケイスケを襲う。

しかし、ここは、図書館、大事には、したくない。
必死で歯を食い縛る。

数分、だんだん痛みが和らいできた。

オレ自身、落ち着きを取り戻した。

（何だったんだ？今は…。）

とにかく、ここを出よう。

出口を出た瞬間。

辺りの時間が止まった。

何が起こったのか、オレには、わからない。

空から黒き翼が、ひらひら落ちてきた。

「何だ？羽根…？」

どこからか、男の声がした。

「何年ぶりの人間界…だ？」

男の姿は、緋色の目、碧き髪、その頭の上には、角、背中には、黒翼、最後に尾。その姿は、先ほど本で読んだ人物、天界の鴉にそっくり。

そんなオレに気が付いたのか、彼は、こちらに来た。そして、オレを不思議そうに見た。

「貴様…、なぜ動ける？」

（俺が聞きたいよー。それ。）

「……………」

何も返答できない。自分が何者かわからないからだ。男は、オレを上から、見下しながら、何かを思い出した。

「まっまさか…、蒼獣なのか？生きていたのか!？」

(蒼獣？それは、カミサマが最も愛した者の一人。何故、オレを見て、それが出てくる？)

オレは、パニツクになった。気が付くと、走っていた。しかし、男は、オレの真横を余裕そうに飛んできています。

「どうして逃げる？」

「貴方は、ハアハア、オレを殺しに来たのでしょうか。ハアハア。」

「なっ、いや…。勘違いさせたなら、すまない。俺は、ケイスケを助けに来た。」

「何を言ってるんですか!？」

「本当だ。だから、逃げることはない。」

その言葉にケイスケは、足を止めた。息は、それほど乱れてはいない。

ケイスケが足を止めたことを確認すると、男は、話し始めた。

「まず、勘違いをさせて悪かった。俺の名前は」

「天界の鴉、ゼロ…。」

「知ってたのか。なら話が早い。神話のことは、知っているな。」

ケイスケが頷いたことを確認すると、ゼロは続けた。

「人間界の蒼獣とは、ケイスケのことだ。」

「えっ？しかし、蒼獣は、死んだんでは？」

「ああ…。ケイスケは、死んだ。」

「そこで神は、死を与えたことを後悔した。しかし、死んだ者は帰らない。神には、ある技術が有った。そうして造られたのがケイスケ。」

「じゃあ、オレは何なんだ!？」

感情が高ぶる。自分は何なのか？造られたとは、どういうことなの

か…。

「じゃあ俺は何なんだ!？」

押さえられない。この感情…。確かにすべての生き物は、カミサマが生み出した。しかし、オレは、生み出されたのではなく、造られた。オレは、真実が知りたかった。

「アンドロイド。そして神は、月光乃ケイスケというアンドロイドを回収しようとしている。」

「オレがアンドロイド…!？」

理解できない、いや、理解したくない現実。今まで自分は人間。それが当たり前だと思っていたことが、すべて違った。しかも生き物でもない。機械。

ならば今、見えている、この皮膚は何なのか…。

考え始めたら、すべてがいやになる。とにかく今は、自分の疑問をぶつけるより、彼が話していたことの疑問をぶつける。

「どうして、神は、オレを回収しようとしているんだ？」

「ケイスケとオレを使って、世界を滅ぼして、新たな世界を創りだそうとしているんだ。そのためには、かつての同士が必要なんだ。」

「じゃあ、ゼロは、オレを回収しに来たのか？」

「いや、それをやらせないために、今、俺は、ここにいる。」

「ゼロ…。オレ…。カミサマを止めたい。」

「その言葉を待ってたんだ。力を貸そう。」

「でも…。」

「？」

「神を裏切ることになるか？それでもいいのか？」

「何を言ってるんだ。俺は、人間界に来たとき、すでに任務をするつもりはなかったんだから。心配するつもりないんだ。」

ゼロは、ケイスケに笑顔を向けた。
そして、辺りの時空切断の結界を解いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5901g/>

神への復讐

2010年10月10日04時44分発行